

こども記者まなっくの2人は、「2024年問題」や荷物が届く仕組みを取
材し、自分の考えをまとめました。



もり たかあき さっぽろ し ほっこうしょう ねん
森 高暁 札幌市・北光小5年

安全に早く ルートを選ぶ

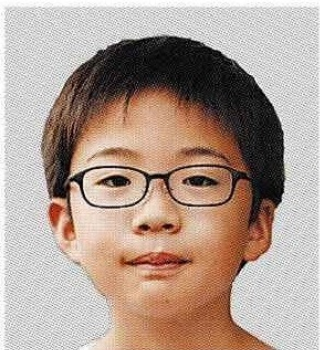
みなさんは、荷物がどのように届けられるか、考えたことがありますか？

札幌に住むぼくあてに、東京から荷物を出すとして。まずはトラックで、東京の営業所から都内の物流ターミナルへ。そこから札幌ベースに運び、家の近くの営業所に届きます。天気などの状況を考えて一番安全に、早く届けるルートを選ぶそうです。一つの荷物にたくさんの人が関わっていると知りました。

北海道での工夫も聞きました。荷物を届

けるには、配達の中心となる営業所が必要。でも、人口が少なく、荷物が集まりにくい地域では、営業所をつくりにくいそうです。そこでヤマト運輸は、北見市常呂町の営業所の中にドラッグストアを出店させました。人が集まる場所をつくり、営業所を存続できるようにしているそうです。

ぼくは取材を通じて、荷物を運び、人と人をつなぐ仕事をしている全ての人を、心から応援したいと思いました。



み かみ かける さっぽろ し にしおかきたしょう ねん
三上 駈 札幌市・西岡北小4年

走るきよりや時間 半分に

来年4月から、トラックドライバーの働き過ぎを防ぐルールが始まります。ヤマト運輸の工夫を聞きました。

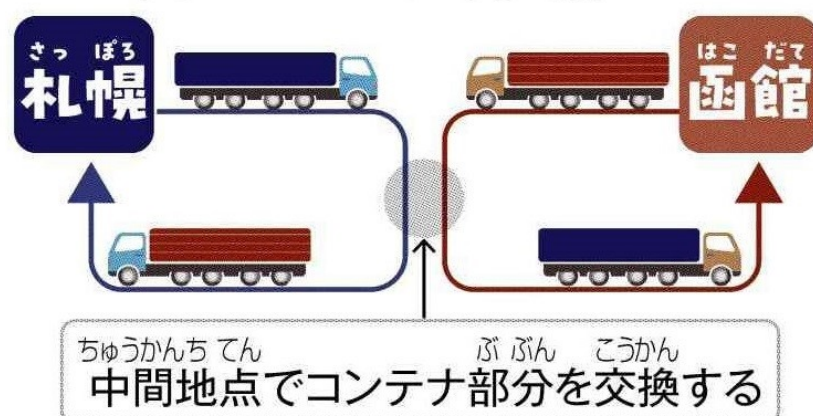
これまで札幌から函館に送る荷物は、1人のドライバーが運んでいましたが、運び方を変えたそうです。

まず、ドライバーは札幌から20トトラックに乗り、中間地点の伊達に向かいます。函館から来た札幌行きの荷物を運ぶ20トトラックと待ち合わせをします。

20トトラックは、運転席部分とコンテナ部分を切りはなすことができます。ドライバーはコンテナ部分を交換して、それぞれの出発地にもどります＝図＝。ドライバーは札幌―函館間を往復しなくてもよくな

「2024年問題」対策の例②

ながい きよりの うんてん を へ 減らす



り、走るきよりや時間が半分になりました。

「なるほど!」とおどろきました。

取材では、相手に荷物を受け取れる日時を聞いてから発送するなど、小学生にもできることも聞きました。これからの物流を支える一人になりたいです。